

緊急時環境放射線モニタリングの分析手順



1

- ・試料を調製する前にサーベイメーターで放射線量の確認をします。
- ※基準を超えたものは高濃度汚染として別に扱います。



2

- ・試料は、大きさが1～2センチ未満となるよう、はさみや包丁、カッターナイフなどで細かく刻みます。
- ※『緊急時におけるガンマ線スペクトロメトリーのための試料前処理法』（平成4年文部科学省）によります。

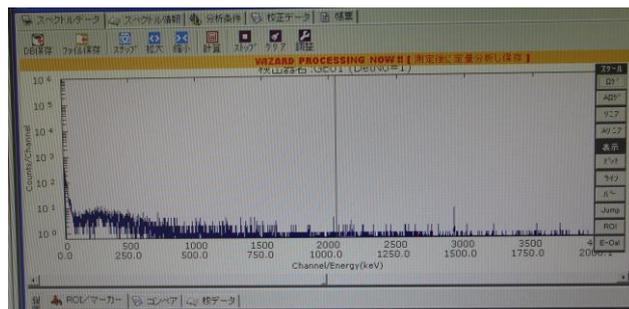
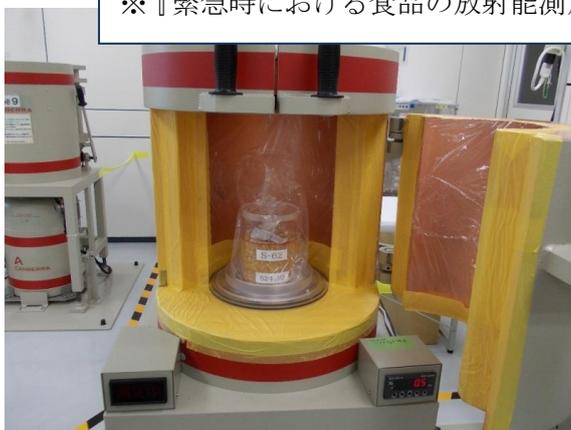


3

- ・調製した試料をマリネリ容器（0.7ℓ）に詰めます（左の写真）。
- ・試料の採取量が少ない場合には、小型プラスチック容器（通称U-8容器）を使用します（右の写真）。

4

- ・測定はゲルマニウム半導体検出器で行います。
- ・1試料当たりの測定時間は試料の量によって異なります。マリネリ容器（0.7ℓ）600秒
U-8容器（0.1ℓ）2000秒
- ※『緊急時における食品の放射能測定マニュアル』（平成14年3月厚生労働省）によります。



5

- ・測定結果は検出器に接続したコンピュータに表示されるとともに印刷されます。